

まえがき

本書は、大学生がコンピュータを用いて学習および研究を行うにあたって、最低限獲得してほしい情報リテラシーに焦点をあてている。大学生活においては、レポートの作成、プレゼンテーション、調査とデータ分析等、コンピュータを利用する機会が多く、かつ、日々の生活でも、携帯電話等のコンピュータを利用することが、いまや当たり前である。これらを踏まえ、本書ではPCのハードやソフトウェア、情報通信ネットワークに関する知識、Windows 10とOffice 2016の操作法を解説している。

コンピュータを学習する際、ソフトの操作方法を覚えることが目的となつては意味がない、と思う。コンピュータのソフトはツール（道具）であり、ある目的（文書を書くことや発表をする等）を達成するために必要な手段としてとらえるべきである。ただ一方で、文字が消えてしまうがどうしたら良いか（挿入モードと上書きモードの区別）、大文字しか打てなくなったがどうしたら良いか、といった基本的な操作方法についての質問を受けることも、10年前と現在も変わりはない。

以上を念頭に、本書では、このボタンをクリックするとこうなる、といった、ソフトの操作の解説のみに限るような内容にはしていない。必要不可欠な機能だけに絞る、それ以外の部分、すなわちコンピュータのハードとソフト、情報通信ネットワークに関する一般論、初歩の部分であっても、軽視してはいけないことを改めて掘り下げて解説している。言わば、コンピュータの総論に言及するような構成にし、かつ個々の知識ができるだけつながるように、しかし、極端に専門的にならないように、広く浅く、かつわかりやすくなるように心がけた。つまり、大学生が情報リテラシーを身に付ける際に、最低限知っておいてほしいことと、それに関する周辺の知識について、総合的に解説するような内容にした。

本書は、パラパラと開いて、該当する項目を探して学習するような本ではない。初めから最後まで通して読む本である。そのために、Officeの操作についても、多種存在する付加的な機能にはふれず、できる限り洗練して、重要な部分だけに焦点をあてた。是非、読者の方には通して読んでいただきたい。必ず、なるほどと感じる部分があると思う。

最後に、本書の発行・編集に尽力くださった共立出版の寿日出男氏、中川暢子氏、本書の資料取得をサポートしてくださった佛教大学情報システム課の諸氏に深く感謝申し上げたい。

2017年9月

筆者記す